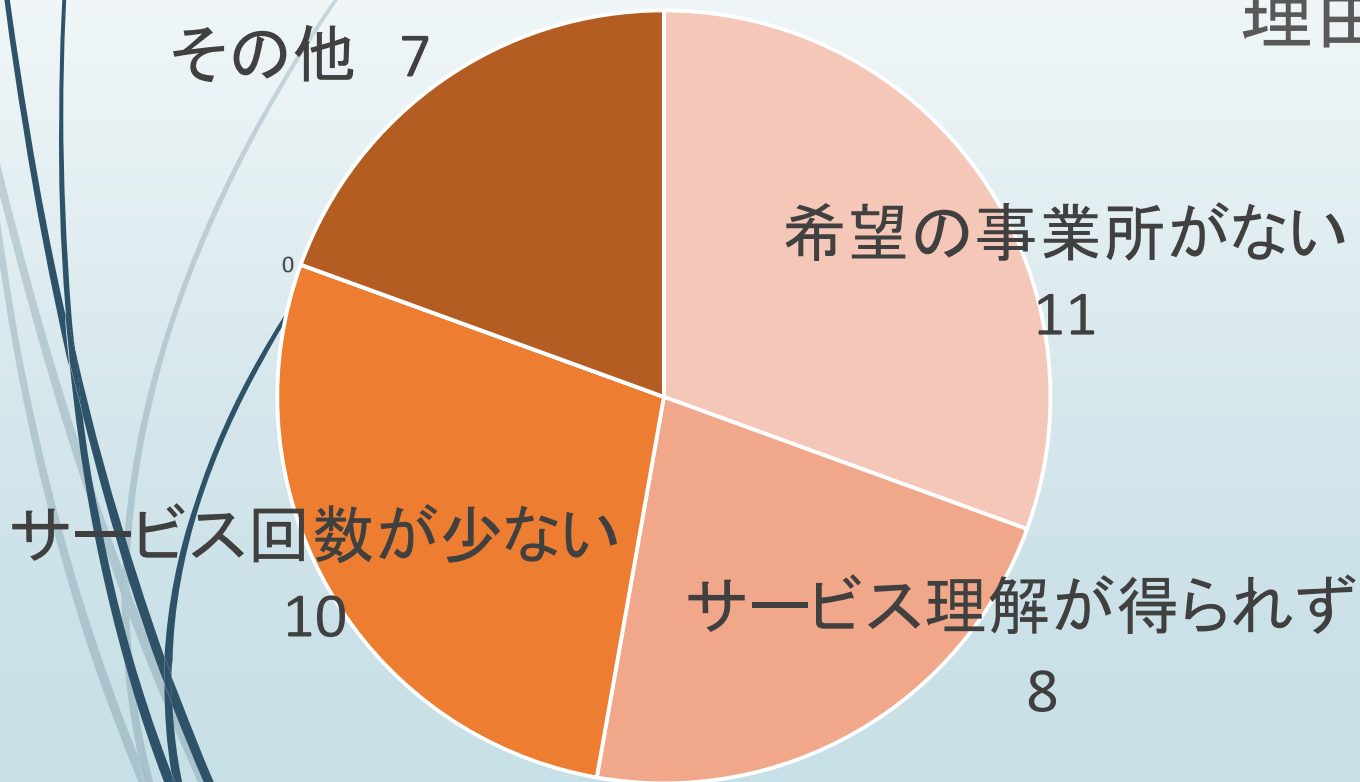


# 介護予防・日常生活支援総合事業『くらしいきいき教室』



# くらしいきいき教室の課題 (総合事業に関するアンケート結果より)

通所サービスが利用につながらなかった理由



通所サービスについて、利用につながらなかった理由

希望の事業所がなかった	11
サービスの理解が得られなかった	8
サービス回数が少ない	10
その他	7

《 対象：地域包括支援センター職員 》

# 希望の事業所がない



- ▶平成28年10月から、くらしいきいき教室の事業者を2事業所追加し、7事業所としています
  - ・介護予防ジム クオ
  - ・リハビリデイサービスnagomi桑名店
- ▶平成28年9月に、くらしいきいき教室の効果・実績について実施事業者とともに説明しています

# サービスの理解が得られない



- ▶ 地域生活応援会議及び事業所コメントとして  
リハビリテーション専門職が関与しながら、通所による機能回復訓練等及び、訪問による生活環境調整等を行う、機能回復に特化したサービスである。
- ▶ 元気アップ交付金（中日新聞朝刊 平成28年10月30日記事より）  
利用者、担当ケアマネ、事業所の努力が報われ、幸せになれる制度である

# ➡回数が少ない



## ▶週2回の提案

※ PT・OT等の意見として、回数に関しては、医療のリハビリ（急性期）が必要な方でも退院することがあり、その方の状態により変わってくるものだが、週1回は維持レベル。週2回で筋力UPや回復が望める。

# くらしいきいきの仕様について

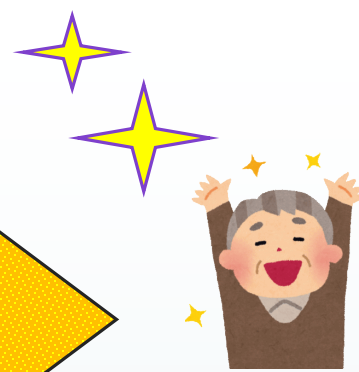
通所回数	週1回以上	<u>週2回以上</u>
1～3ヶ月	¥22,000	<u>¥41,000</u>
4～6ヶ月	¥21,000	<u>¥40,000</u>
訪問回数	月1回以上	月1回以上
元気UP交付金	事業者 ¥18,000	<b>事業者 ¥18,000</b>
	利用者 ¥2,000	<b>利用者 ¥2,000</b>

# くらしいき教室 サービスコード表

種類 コード	項目 コード	サービス名称	単位数	算定 単位	給付 割合	1 単位
A 7	1111	通所型サービスC くらしいき教室 1ヶ月目～3ヶ月目	2,200	1月	90%	1 0 円
A 7	1112	通所型サービスC くらしいき教室 4ヶ月目～6ヶ月目	2,100	1月	90%	1 0 円
A 7	<u>1121</u>	<u>通所型サービスC</u> <u>くらしいき教室</u> <u>(週 2)</u> <u>1ヶ月目～3ヶ月目</u>	<u>4,100</u>	1月	90%	1 0 円
A 7	<u>1122</u>	<u>通所型サービスC</u> <u>くらしいき教室</u> <u>(週 2)</u> <u>4ヶ月目～6ヶ月目</u>	<u>4,000</u>	1月	90%	1 0 円

第一腰椎圧迫骨折し、立ち上がりにふらつきがあり、杖を使用し見守りや介助が必要な状態

## 「元気アップ交付金」の対象者の方の例



### 自立支援に資するケアマネジメント

#### 【アドバイスのポイント】

- ① 転倒しないように本人に合った福祉用具を使用
- ② 栄養指導
- ③ 入浴の動作訓練



地域生活応援会議

多職種協働による  
ケアマネジメントの充実

#### 【通所・訪問のポイント】

- ・ 専門職による適正なモニタリング
- ・ 下肢筋力や可動域訓練等
- ・ 入浴動線の確認及び訓練
- ・ 食事の偏りをなくし、筋力をアップするための栄養指導



生活機能の向上のための  
自立支援に資するサービス提供

くらしいきいき教室

#### 【結果】

屋外杖歩行可能  
家庭菜園再開

#### 【今後の課題】

再び転倒しない



家庭菜園復活

趣味活動再開



# くらしいきいき教室 事業所からのオススメポイント！！

元々のくらしいきいき教室では・・・

- ・ 要支援 1 ・ チェックリスト対象者・・・通所に**訪問サービスが増える**ため、受け入れが良好
- ・ 要支援 2・・・訪問が必要な方も、訪問よりも週 2 回利用を希望

→利用者様の状態に合わせて、サービスの選択がしやすくなります！！

●週 1 回の利用では、自主訓練の習慣化に時間を要してしまう

- ・ 筋力増強において、負荷と休養を管理しやすくなる
- ・ 通所での運動の習慣化により、自宅で行う習慣もつきやすい
- ・ 日常生活での変化を感じやすく、新たな日常生活や日常関連動作へチャレンジしようとする気持ちへ繋がる

●通所することでの外出機会が増える

- ・ 他利用者様との交流が増えて、意欲へ繋がりやすい
- ・ 外へ出る機会が増える事で、目標設定の幅が広がる

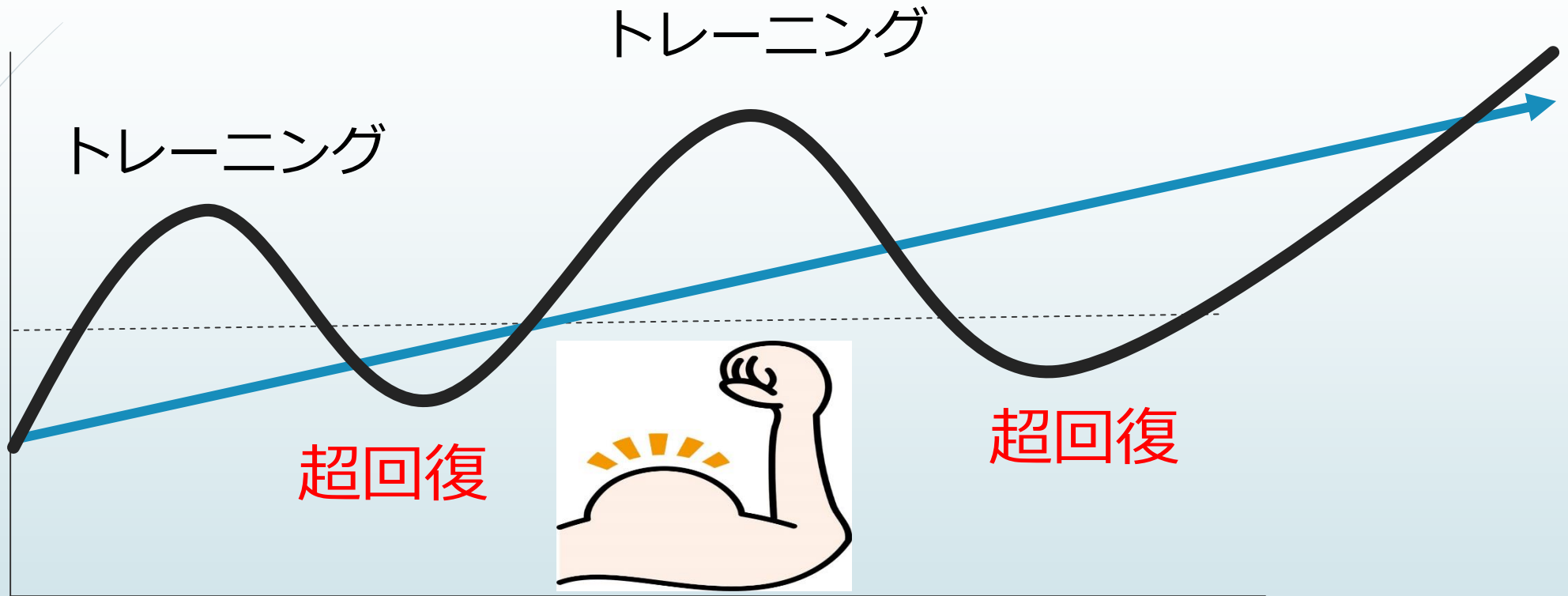
●**訪問**

- ・ 不安な動作や外出を一緒にすることで、自信に繋がりやすい
- ・ 必要な環境設定を行う事で、早期自立へ繋がりやすい

週 2 回の利用と訪問サービスにより必要な能力がつく期間が短縮し、通所への依存を減らし卒業へも繋げやすくなるのではないかと思います



筋  
量



筋肉の回復には  
タンパク質の補給  
が不可欠です！

## くらしいきいき教室事業所からのおすすめポイント!!

- ・通所においては、他者交流の機会が増えるので、社会参加を促進でき、目標の幅も広がる
- ・訪問を活用することで、卒業に向けて不可欠な「運動の習慣」を定着させやすい
- ・生活不活発や閉じこもり等により、要支援状態となられている方は、在宅での活動量が不足しているので、通所と訪問により補うことで、運動量の底上げが期待できる
- ・スタッフとの交流も増えるので、より密に課題を共有することができ、訪問時のアドバイスに活かしやすい



## くらしいきいき教室事業所からのおすすめポイント!!

- ・くらしいきいき教室の特徴である、訪問を活用

～ 導入期 ～

- プログラムの具体化、アセスメントの適正化がはかれる

～ 見直し期 ～

- 機能訓練の進捗状況の確認がはかれる
- 生活環境調整（家族・ボランティア・介護保険事業所等）
- 外出時のできること、できないことの判断ができる

・質の高いリハビリプログラムを集中的に提供することで、短期間での心身機能の向上が望める。結果、「その人らしい暮らしの再構築のサポート」に、これまで以上に時間を費やすことができ、限られた期間の中でQOL向上に繋がる



# くらしいきいき教室の目的は？

くらしいきいき教室を実施することにより、運動、栄養、口腔、認知等に関するリスクを抱える高齢者に対し、通所による運動機能の改善及び訪問による生活機能の向上を図り、もって当該高齢者が介護保険を「卒業」して地域活動に「デビュー」することを目的とする。（桑名市くらしいきいき教室(通所型サービスC)事業実施要綱第1条抜粋）



# くらしいきいき教室で目指す生活機能向上は？

生活機能向上を実現するためには

- ①機能回復訓練を通じた「心身機能」の改善のほか、
  - ②「日常生活動作（ADL）や「手段的日常生活動作（IADL）の向上に向けた「活動」の促進
  - ③家庭や地域での役割の創出に向けた「参加」の促進
- に取り組むことが重要である、というICFの考え方（注122）に基づくものです。

（桑名市地域包括ケア計画293頁及び注122参照）

# 国際生活機能分類（ICF）に基づく考え方

生活機能の低下した高齢者に対し、単に運動機能や栄養状態といった心身機能の改善だけを目指すものではなく、日常生活の活動を高め、家庭や社会への参加を促し、それにより一人ひとりの生きがいや自己実現のための取組を支援して、QOLの向上を目指すものである。